

(様式1) 平成 23 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900075		
法人名	株式会社 メディカル神戸		
事業所名	グループホーム萌花甲子園		
所在地	兵庫県西宮市甲子園六番町14番25号		
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一建物一階に協力医療機関があり、24時間体制で医療と連携しており、入居者や家族に安心感を持っていただいている。又、ターミナルケアまでの取組体制も整っている。 「入居者様に笑顔を！家族様に安心を！」をモットーに入居者や家族の笑顔を大切にしている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成24年2月14日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪神甲子園近くの閑静な住宅街にあるが、付近にはスーパーや商店もある。当グループホームは3階建て建物の2階部分にあり、1階は医療機関、3階には小規模多機能型介護事業所が併設され、複合的にサービスを提供している。利用者が9名の1ユニット型ホームで、利用者一人ひとりに目配りが出来ており、心と心のつながりを大切にしたいケアに取り組んでいる。1階の協力医療機関と綿密な協力体制にあり、24時間体制で連携しており利用者や家族に安心感を与えている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三 者評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、基本理念の読み上げを行っており、理念にそったケアを実践するよう職員間で共有している。	昨年、理念の見直しを行い、「質の高いケアを実践するため、日々介護知識と技術の向上を図るよう研鑽を積み、ご利用者さまに安心・安全・笑顔を提供できるように努める」という理念をつくった。職員室や玄関に掲示すると共に、毎朝唱和し職員間の共有と浸透を図っている。職員会議・法人の運営会議等で日々のケアを理念に戻って振り返っている。また、家族への報告を密に行う等、家族にも安心・安全を提供できるよう理念の具現化に向け取り組んでいる。	事業所は利用者が地域と繋がりがながら暮らし続けられるよう取り組んでいることを踏まえ、地域密着型サービスの意義・役割を関係者で引き続き話し合い、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を明確にした理念づくりが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の子供達と交流している。自治会主催の桜まつりに受け入れてもらい参加している。又、近隣中学生の職場体験学習の受け入れをして交流をもっている。自治会長来訪にて入所者に声を掛けて下さる。地域の方の紹介で腹話術・手品のボランティアにも来ていただいた。	自治会に加入し、自治会主催のさくら祭りへの参加や自治会長の来訪がある。近隣の保育園児や地域のボランティアの来訪、中学生のトライやるウィークでの受け入れ、週1回近隣の食堂から出前を取る等地域との付き合いが行われている。また、医療機関を通じての介護相談等、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる役割や活動を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談来訪者には親身に話を聞き、対象者への理解や支援方法を伝え、相談者の力になれるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者家族、民生委員、市職員、他施設の知見を有する者に参加を依頼し、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。現状の報告、問題提起、参加者からの助言を運営に活かしている。家族の声をサービス向上につなげていくよう努力している。	家族代表・民生委員・市職員(昨年12月から地域包括支援センター職員)・知見を有する者等が参加し、時には利用者も同席して概ね2ヶ月に1回以上開催している。利用者の状況や事業所の取組み、第三者評価の受審結果等の報告を行うと共に、課題等について話し合っている。利用者に提供している「おやつ」を参加者に提供し意見の把握に努めている。また、知見を有する者として参加している、他事業所職員からの助言・体験等をサービスの向上に活かしている。	

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり、情報の共有や意見交換、行事の案内などを行なっている。運営推進会議の議事録を作成し報告している。市の職員も参加する事業者連絡会に出席している。必要に応じて市の担当者へ相談している。今後も市との連携を密にとっていきたい。	市職員(昨年12月からは地域包括支援センター職員)が運営推進会議に参加しており、事業所の状況や取り組みの情報提供を行っている。議事録は市へ直接持参している。グループホーム連絡協議会にも議題によっては市の職員も参加しており、情報交換を行っている。管理者も市担当窓口を訪問したり電話等で法令解釈の相談等連絡を密に取り、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	周辺の交通量が多い為、2F玄関にはオートロックの鍵をつけている。その他の鍵はつけておらずエレベーターの利用も可能となっている。宿泊室にも鍵はついていない。原則として身体拘束をしないケアを職員間で統一している。	研修を実施し具体的事例を用いながら、拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為を学んでいる。研修は出来るだけ全員が参加できるよう、前もって予定を立てた職員会議の中で、午前中に実施する等の配慮を行っている。拘束が疑われる事例があれば、その都度注意し合っている。センサーマットの使用等で危険性を軽減する工夫を行うと共に、予測されるリスクを家族にも説明の上、原則として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、エレベーターは自由に使用できるが、玄関は周辺の交通量が多いこともあり施錠している。利用者の外出希望や気配を感じた時は、さりげなく付き添って外出している。	新人職員は身体拘束についての理解が十分とは言えないので、心理的な拘束を含めて意識と知識のより一層の向上に取り組むことが望まれる。また、玄関の施錠について、鍵をかけることの弊害や鍵をかけない暮らしの大切さについて、話し合う機会を持ち続けることが望ましい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の心身の状態や様子観察できるよう小さな事まで注意を払うように努めている。言葉一つで虐待に繋がる事を職員へ指導する等、理解へ繋げている。	研修を実施し、具体的事例を用いながら、虐待の対象となる具体的な言動を学んでいる。研修は出来るだけ全員が参加できるよう、前もって予定を立てた職員会議の中で、午前中に実施する等配慮している。虐待に繋がる恐れがある言葉遣い等があれば、その都度注意し合っている。管理者は職員の日々の言動に留意すると共に、有給休暇の取得促進・可能な限り希望を採り入れた勤務シフトの作成等、職員が安心して働くことが出来る環境づくりに努め、職員の疲れやストレスが利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。通報の義務や発見した場合の対応方法を周知徹底している。常に利用者の身体状況に留意し、自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。	

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修等で学ぶ機会を作るようにしていきたい。	現在成年後見人制度等を活用している人はいない。また、研修等で職員は概略的な理解は出来ているが、制度等について系統的にしっかり学ぶ機会は持っていない。	新たな活用や支援の必要性が生じたときに備え、権利擁護に関する制度等の理解を深めておく機会を持つことが望ましい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約の段階から十分な説明をし、納得、同意を得るようにしている。不安や疑問点については誠意をもって答えるように努めている。	家族に利用前の見学を必ず依頼し、概ねの内容を説明して、契約書を自宅へ持ち帰ってもらっている。契約時には重要事項説明書を中心に、質疑応答を交えながら、時間をかけて説明している。特に入院時や食事のキャンセル料等、利用料金関係の項目についてはしっかり説明している。料金改正等で契約書の内容を変更する時は、根拠を明示した文書を家族に送り、同意を得ている。入院や入所等での解約時には、退居後の支援方法についての情報提供を行う等、十分な説明と納得を経ての円滑な退居のための支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議や家族来訪時に意見や要望等を聞く機会をつくっている。	家族訪問時には必ず声かけと挨拶を行い、さりげない会話の中で、意見・要望等の把握に努めている。家族会を秋祭り終了後に開催し、家族全員に発言の機会を設けている。ケアプラン作成時には家族の意見・希望・意向等を把握し、プランに反映させている。また、第三者評価時の家族アンケートも尊重し、運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度職員会議を開催し、職員からの意見・提案を聞くようにしている。職員の声を反映できるように2週間に一度、オーナー、代表、管理者等による運営会議の場を設けている。	管理者は日常的に職員に声かけを行うと共に、職員会議・法人の運営会議等で職員からの要望・提案等を聞く機会を設けている。また、年数回、代表者・事務長・管理者と職員の個別面談を行っている。利用者毎の居室担当制を採り入れる等、利用者との馴染みの関係にも配慮している。また、各種チェック表の作成と活用等、職員からの提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が安心・快適に働く事ができるような勤務シフトの作成に努め、資格手当などにより職員の能力向上に酬いる体制をとっている。法令を遵守した職場環境条件の提供を行なっている。		

自己 者 第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	個々の職員の力量に合わせた法人の内外 の適切な研修を適切な時期に受けられるよう積極 的に勧め、全体のスキルアップを 図っている。又、半年に一度自己評価表を つけてもらい、自己反省及び能力向上に努 めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	定期的開催される市の連絡会に管理者 を出席させ、情報交換、サービスの質の向 上に努めている。職員を勉強会に参加させ ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が安心して暮せる環境を提供するた め、言葉一つ一つに耳を傾け信頼関係作り を大切にしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の気持ちを考慮して安心していただけ るよう対応している。家族との信頼関係も大 切にしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型居宅介護施設を併設して おり、本人が一番必要としているサービスを 提案できるよう、他のサービス利用を含め た視点で見るようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家庭であると捉えている。 日々の暮らしの中で昔の話を聞かせてもら いながらお茶パック作りや布切り、洗濯物た たみなど入所者ができる家事を職員が一緒 に行うことで支えあう関係作りをしている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	秋祭りなど大きな行事の時は家族にも参加 していただく場を作っている。また、ご家族 様の声を大切にするようにしている。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・来客などには入所者に了承を取りながら積極的に対応し、関係継続の支援に努めている。	入居時に生活歴・趣味・意向等を聞き取ると共に、日々の係わりの中から今までの利用者と地域社会との関係を把握し、アセスメントシートの「社会との係わり」欄等に記録として残している。友人等の来訪時には湯茶の接待、3Fの小規模多機能型へ通う配偶者と過ごす時間を少しでも多く設ける工夫、郵便物のやり取りの支援を行う等、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り入所者同士の関わり合いを大切にしている。入所者がピアノを弾き、他の入所者が音楽に合わせリズムをとったり、一緒に歌を歌ったりして過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係性を大切にしながら、相談や支援に対応していくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族から一人一人の思いや暮らし方の希望の把握に努めるとともに、入居以前の暮らしを遮断しないようにしている(友人との交流など)。認知症が進んで意向を把握するのが困難な入所者については、馴染みの暮らし方を家族に聞いたり、入所者との会話で意向を推量している。	入居時のアセスメントシートや、日々の係わりの中でのコミュニケーションを大切に利用者の思いや意向を把握している。また、意思の疎通が難しい利用者は言動・表情等から何を訴えているのか話し合い、利用者ごとの「気づきノート」に記録として残し、時々の状況に応じて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にし、馴染みの暮らし方に出来る限り近付けるように本人、家族と共に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態や有する力の把握に努め、本人の暮らしの現状を職員間で共有している。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医や看護師と連携し、より良いケアを一番に考えている。職員会議、カンファレンスの実施により意見を共有し、介護計画につなげている。	職員の気づきや、本人・家族の意向等をしっかり踏まえ、かかりつけ医や看護師、時にはグループホーム連絡協議会に参加している介護従事者等に相談しながら、基本的に3ヶ月毎に介護計画を作成している。利用者の状況変化や家族の意向が変化した時は、期間に関係なく現状に即した新たな計画を作成している。全ての利用者に対して、月1回程度職員会議の中で予防的な観点も含めて介護計画の内容を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ごとに気付きノートを作成しており、職員間で共有している。また、日々の様子観察などを日誌に残して状況の変化に職員が対応出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して本人や家族の思いを一番に考え、柔軟に対応するよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から医療面のサポートや、近隣の食堂で出前をとっており入所者はそれを楽しみにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の岡田クリニック(内科・外科)が1階にあり、体調変化や希望に応じて24時間往診対応が可能であり、安心して自室で適切な医療が受けられる体制がある。	入居前から事業所1階の医療機関をかかりつけ医としていた利用者が多く、また緊急時の対応や通院、投薬等の利便性から事業所1階の医療機関の医師をかかりつけ医としている。以前からのかかりつけ医での受診希望があれば、本人・家族の希望を大切にした受診支援を行う体制がある。1階の医療機関以外での通院介助は家族が行うこととして契約時にしっかり話し合っているが、近隣の歯科受診等では事業所が臨機応変に対応している。受診結果はかかりつけ医から家族に、また、家族から事業所へとお互いに情報を共有している。	

自己 評価 項目	第三者 評価 項目	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階にあるクリニックの看護師と連携をとり、個々の入所者状態を把握し、適切な受診や看護を受け、早期発見につながるよう努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院時は連絡を取り、情報交換や相談に努めている。定期的に近隣の総合病院へ挨拶に行き関係作りに努めている。	入院時にはかかりつけ医から入院先に情報提供が行われているが、必要に応じて事業所からもアセスメントシートをFAXしたり、日々の暮らしぶりを電話する等、入院時に於ける本人の支援方法に関する情報を提供している。入院中は適時面会に行き、家族・相談員等関係者と情報交換を行いながら、入院によるダメージを防ぎ安心しての受療と早期の退院に向けた支援を行っている。また、退院時には「看護サマリー」等の提供を受けて、退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に看取りの場や延命治療の有無について入所者と家族等にアンケート方式による確認をとっている。又、重度化した場合は入所者の意思に沿えるように家族等・主治医とで頻繁に話し合いを持ち具体的な対応方針を決定している。	契約時に重度化指針と看取りの指針で重度化した場合や終末期に事業所が対応し得る支援方法の説明を行い、本人・家族の意向をアンケート方式により確認している。利用者の重度化が進んできた時は、かかりつけ医が状況の説明を行い、家族等の意向を確認しながら今後の支援方法を繰り返し話し合い、話し合った支援方法を記録として残し方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修において看護師より急変時の対応について学ぶ機会を定期的にするように努めている。医師、看護師の助言を職員間で共有し活かすように努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防用設備の点検を行い(業者委託)、消防署に届出ている。定期的に年2回と新職者採用時に避難訓練を実施している。又、緊急時の職員間の連絡網を整備している。	年2回、併設の事業所(小規模多機能型)と合同で避難誘導・消火・通報等の火災訓練を実施している。また、新人職員には通報等の訓練を行っている。廊下には、厨房からと玄関付近からの出火想定時の避難経路をチャート化して掲示し、防火扉も2ヶ所に設置している。事業所地下には井戸もあり、米・水等の備蓄も行っている。	グループホームが小規模多機能型居宅介護事業所(3階部分)と併設された建物の2階部分にあることも踏まえ、事業所単独や夜間想定等、より実践的な訓練を行い、また、機会ある毎に事業所の状況を話し合い、災害時に実際に利用者を避難誘導できる方法を全ての職員が身につけておくことが期待される。また、地域への協力の呼びかけや、津波時の対応を話し合っておく事が望まれる。

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての入居者が人生の先輩であることを念頭において日常の対応をしている。	接遇研修を実施し、全ての入居者が人生の先輩であることを念頭において日々のケアに取り組んでいる。例えば、認知症であっても親が子に言うような言葉は使わないなど、具体的な事例でプライド等を損ねない言葉かけや対応になっているかをお互いに注意し合っている。また、個人記録類は職員室上段の保管庫に保管している。	月1回発行している機関紙「月間グループホーム萌花甲子園」を家族や運営推進会議メンバー等に配布し事業所内に掲示しているが、利用者の写真掲載等について家族等の同意を得ておくことが望ましい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者一人一人に自己決定していただけるように声かけひとつひとつに注意を払うように努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりが自分のペースで自然に過ごせるように「その人にとって…」を職員が日々意識して支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の洋服はご自分で選べるように、入所者の方に選択していただけるよう声掛けをするようにしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合わせて好きな物を職員が買いに行ったり入所者と買物をする機会を作るようにしている。行事ごとに季節の味覚を楽しんだり、たこ焼きを一緒に焼いてその場で食べるなどしている。	火曜の昼食は近くの食堂から出前を取るが、それ以外は委託業者から半調理のものが届けられる。献立は委託業者が考えているが、事業所で、きざみ食等利用者の状況に合わせた食事形態の変更等を行っている。時には、利用者の食べたいものを買ってきたり、手づくりのホットケーキやたこ焼づくりを楽しんでいる。利用者が野菜をちぎったりお茶を入れる等、一人ひとりの好みや力を活かそうとした支援を行っている。また、外食の機会を設けるよう検討している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた形態でお食事を提供している。又水分量も一日トータルで把握し、本人の好きな物を提供するようにしている。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方にはご自分で口腔ケアをしてもらい、出来ない方もその方毎に本人の力に応じた口腔ケアをしてもらい、スタッフが支援を行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンからトイレ誘導の声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレ誘導の声かけを行う等、可能な限りトイレでの排泄を大切にしたい支援を行っている。例えばトイレの扉は必ず閉める、排泄介助時は手順ごとの声かけを行うなど、利用者の羞恥心や不安を軽減するための配慮を行っている。一人ひとりに適応したパット・パンツ等の使用を心がけると共に、大きいパットを小さいものに、また、夜間はおむつでも昼間はリハビリパンツに等、出来る限りおむつ等の使用を減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄についても看護師がチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを付け、看護師がチェックし排便コントロールを行なっている。又、トイレにて腹部マッサージを行ない、長く座ってもらうようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者の体調を確認した上で、週2回入浴している。本人より拒否が見られる場合は無理強いせず日を変える等対応している。	基本的には週2回、午前入浴としているが、希望があれば午後入浴も対応できる。現在週2回以上の入浴を希望する人はいないが、希望があれば小規模多機能型居宅介護事業所の使用状況を見ながら対応できる。異性介助を嫌がる人はいないが、負担感等で入浴を嫌がる人には、入浴日や時間を変えての声かけ等一人ひとりの状況に応じて入浴が楽しめるよう工夫している。また、ゆず湯・菖蒲湯等季節を楽しみながら入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて休息の時間を入所者の希望によりとってもらうようにしている。又、昼夜逆転の方には昼間に起きていただけるように食堂にお誘いする等上手な声掛けをするようにしている。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局に依頼し一包化し、看護師が管理している。薬箱を整備し管理しやすくしている。薬については看護師より申し送りがあり、情報を共有できるようにしている。又、本人の状態の変化が見られれば主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などを季節ごとに行なっている。秋祭りでは家族との交流を楽しんでいただいている。一人一人の楽しみごとを職員も一緒に楽しむようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の希望により近隣のスーパーや公園等へ外出するようにしている(体調・感染症流行の時期など注意を払って)	春・秋期等には利用者の状況・希望、天候等に沿って、近くの公園への散歩やスーパーへの買い物等に出かけている。花見時には近くの公園へ出かけている。車イスの人も玄関入り口付近への外気浴を兼ねた外出を試みている。	本人の希望を把握し、日常的に外出支援を行うとともに、重度の利用者でも、利用者に合わせた移動に配慮し外出支援を行えるよう働きかけることが望まれる。また、普段は出かけられないような場所でも、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援することが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご自分で金銭を持っているが基本は金庫管理となっている。買物などでは支払を自分でしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者と一緒に郵便局に行ったり、電話をしたいという希望があればホームの電話を使用してもらっている。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには季節ごとの花を生けたり、季節を感じてもらえるように壁に手作りで飾り付けをしている。利用者が不快な思いをしないように室温、湿度管理や共有部分の掃除を徹底していきたい。	テーブルの上に季節の花を生け、壁に「節分」の習字や季節ごとの手づくりの飾り付けを行い、廊下には椅子等も配置して一人や少人数でくつろげる工夫を行う等、季節感や生活感を採り入れている。廊下等は清掃に努め、温度・湿度管理も行って居心地よく暮らせるよう、また、感染症の防止にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で話せる場をもてるように座席の移動など、職員が工夫しながら対応している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人が居心地良い環境づくりをするようにしている。又、転倒の危険性を少しでも減らすように障害物等を置かないように気をつけている。	家族と相談しながら、家族の写真・ラジカセ・鏡台・椅子・加湿器等利用者が使い慣れたものや好みのものを活かして利用者が居心地よく暮らせる居室の配慮が行われている。また、転倒等の危険性を少しでも減らすため、障害物等を置かないよう留意し整理整頓にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることわかることを職員一人ひとりが理解するように努め、入所者が安全にかつ自立した生活に向うように日々努めている。		